

ベランダバードウォッチ 2020 年夏の報告書

バードリサーチ・日本野鳥の会栃木県支部

2020 年は早春から新型コロナウイルスの世界的な蔓延で、日本でも全国的に日々の活動が自粛され、現在に至っています。一方で、2020 年の夏は長い梅雨やその後の異常ともいえる酷暑に見舞われ、野外での活動が制約されることの多い夏でした。このような状況のもと、ベランダバードウォッチは身近な鳥たちの生息状況をどのように記録できたのでしょうか。さらに、この調査も 2005 年に開始してから早くも 15 年が経ちました。この間に私たちの身近に生息する鳥たちは、その生息分布や生息個体数がどのように変わってきたのでしょうか。以下に 2020 年繁殖期の調査結果から振り返ってみました。

調査状況

今年の繁殖期の調査は、北海道から九州までの 97 名によって、家での調査が 57 か所、家の周りの調査が 67 か所で行われ（図 1）、過去最多の参加者および調査地数でした。地域別の調査

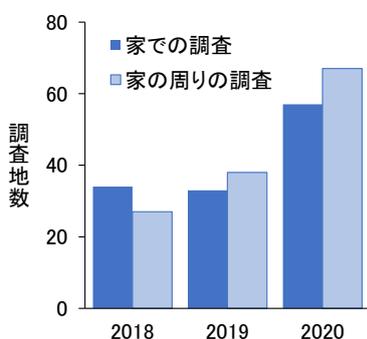


図 1. 過去 3 年間の調査地数の推移

状況をみると、例年通り関東地方が最も多く、両調査とも調査地の 49-63% を占めていました（図 2）。また、例年調査地が 1 か所程度と少なかった北海道が少し増えました。一方で、東北地方は少ないままでした。繁殖期の調査は、冬の調査と違って厳しい気象条件下での観察と違いますので、東北地方や北海道にお住まいの方には、繁殖期だけでもご参加いただければと思います。ところで、今年は調査地数が昨年までと比べて著しく増加しました。これは、新型コロナウイルスの影響で遠出を控えられた方が、身近な場所で野鳥観察をされ、その結果をベランダバードウォッチにご報告いただいた

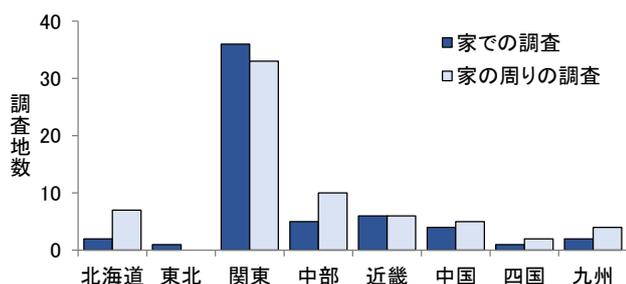


図 2. 地方別の調査地数の比較

ためかもしれません。ただ残念なことに、両調査とも調査地数は多いものの各調査地の調査回数が 1, 2 回と少ない場所が多くを占めました。特に家の周りの調査は、同じ場所で記録した種の大まかな個体数を 10 日ごとに報告する調査です。そのため、残念ながら記録された種の季節変動などの解析にもちいることができませんでした。調査回数が少ないのは、参加していただいたものの時間的に余裕がなく継続した観察ができず、単発の参加になってしまったのかもしれません。

記録種および記録状況

今回、家での調査（5/11-7/20）と家の周りの調査（3/1-8/31）で記録された種数は、74 種と 143 種で合計 145 種（不明種は除く）でした（付表 1）。特に今年は調査地数が増加したことと北海道などの調査地が増えたことで、昨年までより多くの種が記録されました。たとえば、タンチョウやクマガラ、ヤマゲラ、エゾセンニュウなどの記録がそのよい例です。また、調査地が増えたことで、新たにカオグログビチョウやカオジログビチョウなどの外来鳥も記録されました。さらに、今回、家の周りの調査は春早く繁殖する種の記録状況を解析するため、データを抽出する際に 3 月 1 日から調査期間としました。そのため、記録の中にはツグミやカシラダカなどの冬鳥も多く含まれています。このことも、家の周りの調査で記録種数が多い理由となっています。

表 1 は、家での調査と家の周りの調査で記録された記録率上位 15 種の記録率です。順位こそ多少違うものの、その顔触れは同じでした。過去の調査でも同様の傾向が見られていて、記録率上位種の顔触れもほぼ同じです。これら 15 種が日本の市街地付近の主要な鳥たち

表1. 2020年繁殖期の調査の記録率上位15種とその記録率

家での調査			家の周りの調査	
No.	記録種	記録率	記録種	記録率
1	スズメ	0.828	スズメ	0.857
2	ヒヨドリ	0.641	ヒヨドリ	0.844
3	ハシブトガラス	0.593	ツバメ	0.672
4	ムクドリ	0.558	シジュウカラ	0.739
5	シジュウカラ	0.499	ハシブトガラス	0.754
6	キジバト	0.454	キジバト	0.774
7	ツバメ	0.386	ムクドリ	0.693
8	メジロ	0.347	ハシボソガラス	0.600
9	ハシボソガラス	0.320	カワラヒワ	0.531
10	ウグイス	0.303	メジロ	0.489
11	カワラヒワ	0.240	ウグイス	0.428
12	コゲラ	0.184	ハクセキレイ	0.497
13	ハクセキレイ	0.181	ドバト	0.410
14	ドバト	0.163	コゲラ	0.341
15	オナガ	0.113	オナガ	0.290

と言えそうです。

15年間のベランダバードウォッチで見てきた傾向

この調査の主要な調査目的は、身近な環境に生息する鳥類の長期的な生息状況の変動を明らかにすることです。ベランダバードウォッチも今年で15年が経ちました。そこで、この調査から得られた身近な環境に生息する種の生息状況の変動や生息状況が変わりつつある種について両調査から紹介します。

・家での調査

繁殖期の家での調査は、5月中旬から7月にかけてベランダや庭などで15分間出現した鳥の種と個体数を記録するものです。そこで、全国的に生息しているキジバトとツバメ、スズメ、カワラヒワの4種の個体数指標を解析しました(図3)。しかし、調査を開始した直後は、継続した調査地がまだ少ないため、今回は2008年から2020年まで(一部2010年から参加の調査地を含む)継続的に調査された全国15か所のデータに基づきました。解析にはトリム(Statistics Netherlands)と

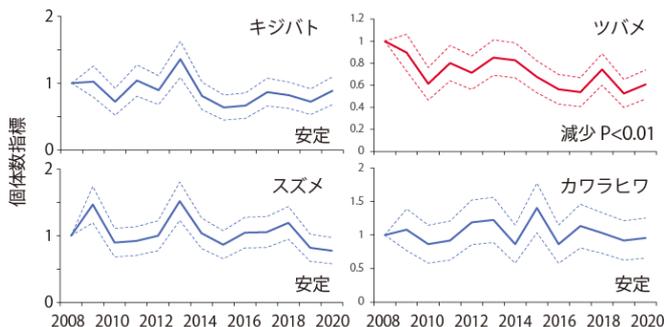


図3. 身近な鳥4種の2008年から2020年の個体数指標の変化。全国15か所の調査地の結果に基づいている。

いう解析ソフトを使用しました。

その結果、2008年を1とすると2020年のキジバトの個体数指標は0.88, スズメは0.78, カワラヒワは0.96で、これら3種の個体数は「安定」しているとの結果が得られました。一方、ツバメは同じく2008年を1とすると2020年では0.61となり緩やかに減少していることがわかりました(P<0.01)。今回、解析にもちいた調査地は関東地方が多いものの中部地方や近畿地方、中国地方、九州も含まれています。近年、日本ではツバメが減少していると言われていますが、ベランダバードウォッチのデータからもツバメの減少が示唆されたと考えそうです。

・家の周りの調査

家の周りの調査は、家での調査と違って調査範囲が広く、そのため調査地に河川敷や公園などの緑地、雑木林などが含まれます。市街地周辺の疎林や藪などに生息する鳥たちも記録されます。今回は、そのような疎林や藪に生息する種としてエナガとガビチョウの生息状況の変化を、2010-2020年の10年間継続して調査された13か所の調査地を対象に解析してみました。

まず、エナガが記録された調査地数は7か所から11か所で、記録された調査地数は調査年によって多少変動し、増加や減少がややはっきりしません(図4)。しかし、記録回数の合計は、2010-2012年ではせいぜい43回だったのがその後徐々に増加し2016年以降は60回前後記録されるようになりました。記録された調査時期を確認すると3月から5月上旬にかけて多いことがわかっています。エナガは春早くから繁殖に入り、4月下旬から5月上旬にはヒナが巣立ちます。この時期に徐々に記録回数が増加しているのは、ベランダバードウォッチの調査地で繁殖するエナガが増えているためと推測されます。

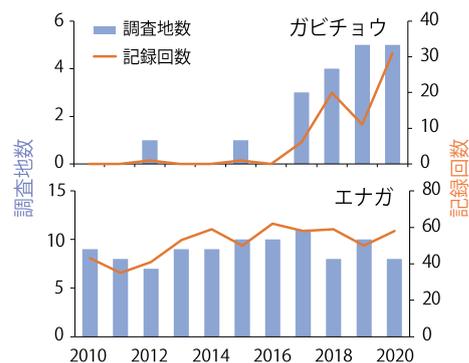


図4. エナガおよびガビチョウの記録地数と記録回数の10年間の変化。両種とも2010-2020年の10年間継続して調査された13か所の調査結果に基づく。



公園で繁殖するエナガ

次に外来種のガビチョウの記録状況の変動です。ガビチョウの記録状況の変化については、すでに2018年繁殖期の報告で、直近の3年間の記録をもとに増加傾向にあるらしいことを報告しました。今回は、さらに長期にわたった傾向を把握することを目的に10年にわたって調査が行なわれた調査地を対象に解析しました。今回解析に用いられた調査地ではガビチョウが初めて記録されたのは2012年でした。その後、2017年まではほとんど記録されませんでした。2017年以降になると記録地数は少ないもののコンスタントに増加してきました。さらに、記録回数も2016年以前に比べると増加傾向にあります。今回解析に用いた調査地の多くは関東や中部地方の調査地です。これらの地域では、ガビチョウが次第に市街地周辺にも増加しつつあることが改めて確認されたと言えます

最後に

ベランダバードウォッチの調査地は市街地の小規模な公園や庭などです。秋、ベランダで観察していると、渡り途中のカケスやヒヨドリの群れが上空から公園の緑地を目指して降りてくるのがみられます。その光景は、あたかも広大な砂漠に小さなオアシスをみつけて喜び勇んで駆け寄るようです。彼らは一息ついたのち、再び南へと飛び立っていきます。このような市街地周辺の小規模な緑地や植え込み、河川敷の藪は、身近な鳥たちの営巣場所や渡り鳥の中継地、さらには越冬環境として重要な生息地になっています。こうした市街地の生息地でも長期間、同じ場所で同じ方法で調査を続け、全国からデータを持ち寄ることで、今報告で紹介し

たツバメやエナガ、ガビチョウのように少しずつですが鳥たちの生息状況の変化を察知することができます。今回繁殖期の調査地数は大幅に増加しました。ぜひ、これを機会に今後とも継続してこの調査にご参加いただければ嬉しいかぎりです。なお、さまざまな事情により調査を中断されている方でも、可能な範囲で結構ですのでまた再開していただければ幸いです。調査地が多くなれば多少の調査の空白は問題ありません。また、今回ツバメなどの解析にもちいたソフトウェアは中断による空白を補正してくれます。この調査は、継続と調査地数が頼りです。ぜひ、今後とも継続した参加をお願いできればと思います。以下に、2020年繁殖期の調査にご参加いただきました皆様のご芳名を記してお礼に替えさせていただきます。秋元玲子、渥美美保、天沼弘勝、五十嵐勉、石口富實枝、石田健、石原渉、泉賢晴、磯野恭輔、入船憲一、植田睦之、植村慎吾、宇佐見和子、丹羽和夫、江村千佳子、大出水幹男、大井智弘、大塚啓子、沖田絵麻、恩藤淳一、葛西文彦、和さん、加藤ななえ、加藤美奈子、川畑紘、久保賢一、黒沢令子、小荷田行男、小林浩人、小林俊子、小堀脩男、近藤盛文、坂田樹美、笹倉千江花、佐藤華音、佐藤重穂、佐藤司、佐藤裕一、佐藤留美子、下山真穂、ジョ奈美、白石健一、白石ひとみ、菅原美奈子、鈴木明文、鈴木梨緒、鈴木竜次、須田由美、諏訪部幸子、関口佳子、大門明美、大門聖、高石良子、高岡修史、高橋佳子、高山裕子、滝澤三郎、武居佳子、武本陽子、武谷由紀子、辰巳文吾、田中利彦、塚島律子、辻谷英樹、富田恵理子、とんちゃ、長嶋宏之、長田幸子、中村龍平、西川光一、西田好恵、野口真磨子、萩原賢一、畑野暢子、服部佳奈、hikimiriver、平野哲也、bootsy、福島孝子、藤原淳子、古川紀美子、松尾真帆、松平晶子、松本卓也、松本由美子、三田長久、箭内伸子、宮崎朋子、山崎優佑、安田耕治、柳原将男、山田篤、吉田啓二、吉中康展、吉邨隆資、渡邊ケイコの各氏。

とりまとめ：平野敏明

付表1. 記録種一覧

No.	記録種	家	周り	No.	記録種	家	周り	No.	記録種	家	周り
1	キジ	○	○	50	ハイタカ		○	99	ヒレンジャク		○
2	オシドリ		○	51	オオタカ		○	100	ゴジュウカラ	○	○
3	オカヨシガモ		○	52	サシバ		○	101	キバシリ		○
4	ヒドリガモ		○	53	ノスリ		○	102	ミンサザイ		○
5	マガモ		○	54	フクロウ		○	103	ムクドリ	○	○
6	カルガモ	○	○	55	アオバズク	○	○	104	コムクドリ	○	○
7	コガモ		○	56	アカショウビン	○	○	105	トラツグミ		○
8	ホシハジロ		○	57	カワセミ	○	○	106	クロツグミ	○	○
9	キンクロハジロ		○	58	ブッポウソウ		○	107	マミチャジナイ		○
10	スズガモ		○	59	アリスイ		○	108	シロハラ		○
11	カワアイサ		○	60	コゲラ	○	○	109	アカハラ		○
12	カイツブリ		○	61	アカゲラ	○	○	110	ツグミ		○
13	キジバト	○	○	62	クマガラ		○	111	ルリビタキ	○	○
14	アオバト	○	○	63	アオゲラ	○	○	112	ジョウビタキ		○
15	カワウ	○	○	64	ヤマゲラ		○	113	ノビタキ		○
16	ミゾゴイ		○	65	チョウゲンボウ	○	○	114	インビドリ	○	○
17	ゴイサギ	○	○	66	ハヤブサ		○	115	コサメビタキ		○
18	ササゴイ	○	○	67	ヤイロチョウ	○		116	キビタキ	○	○
19	アマサギ		○	68	サンショウクイ	○	○	117	オオルリ		○
20	アオサギ	○	○	69	サンコウチョウ	○	○	118	スズメ	○	○
21	ダイサギ	○	○	70	モズ	○	○	119	キセキレイ	○	○
22	チュウサギ		○	71	カケス	○	○	120	ハクセキレイ	○	○
23	コサギ	○	○	72	オナガ	○	○	121	セグロセキレイ	○	○
24	クロサギ		○	73	ハシボンガラス	○	○	122	ビンズイ		○
25	タンチョウ		○	74	ハシブトガラス	○	○	123	タヒバリ		○
26	ヒクイナ		○	75	キクイタダキ		○	124	アトリ	○	○
27	バン		○	76	ハシブトガラ		○	125	カワラヒワ	○	○
28	オオバン		○	77	コガラ	○	○	126	マヒワ		○
29	ホトギス	○	○	78	ヤマガラ	○	○	127	ベニヒワ		○
30	ツツドリ	○	○	79	ヒガラ	○	○	128	ベニマシコ		○
31	カッコウ	○	○	80	シジュウカラ	○	○	129	イスカ		○
32	アマツバメ		○	81	ヒバリ	○	○	130	ウソ		○
33	ケリ	○	○	82	ツバメ	○	○	131	シメ		○
34	イカルチドリ	○	○	83	コシアカツバメ	○	○	132	イカル	○	○
35	コチドリ	○	○	84	イワツバメ	○	○	133	ホオジロ	○	○
36	シロチドリ		○	85	ヒヨドリ	○	○	134	ホオアカ		○
37	ヤマシギ		○	86	ウグイス	○	○	135	カシラダカ	○	○
38	オオジシギ		○	87	ヤブサメ		○	136	アオジ		○
39	タシギ		○	88	エナガ	○	○	137	クロジ		○
40	クサシギ		○	89	オオムシクイ	○	○	138	コジュケイ		○
41	キアシシギ		○	90	メボソムシクイ	○	○	139	コブハクチョウ		○
42	イソシギ	○	○	91	エゾムシクイ	○	○	140	ドバト	○	○
43	ユリカモメ		○	92	センダイムシクイ		○	141	ホンセイインコ	○	○
44	コアジサシ	○		93	メジロ	○	○	142	ガビチョウ	○	○
45	ミサゴ	○	○	94	エゾセンニュウ		○	143	カオグロガビチョウ		○
46	ハチクマ	○	○	95	オオヨシキリ	○	○	144	カオジロガビチョウ		○
47	トビ	○	○	96	コヨシキリ		○	145	ソウシチョウ		○
48	オジロワシ		○	97	セッカ	○	○				
49	ツミ	○	○	98	キレンジャク		○			74	143

家:5月10日から7月10日
 周り:3月から8月末